

ICHIN

医心

隔月刊
無料配布

2026.1

No.109

最先端の白内障手術を
被災地や途上国へ

金沢医科大学眼科学講座 主任教授

佐々木 洋

ここで完結させ、
頼られる地域医療を担う

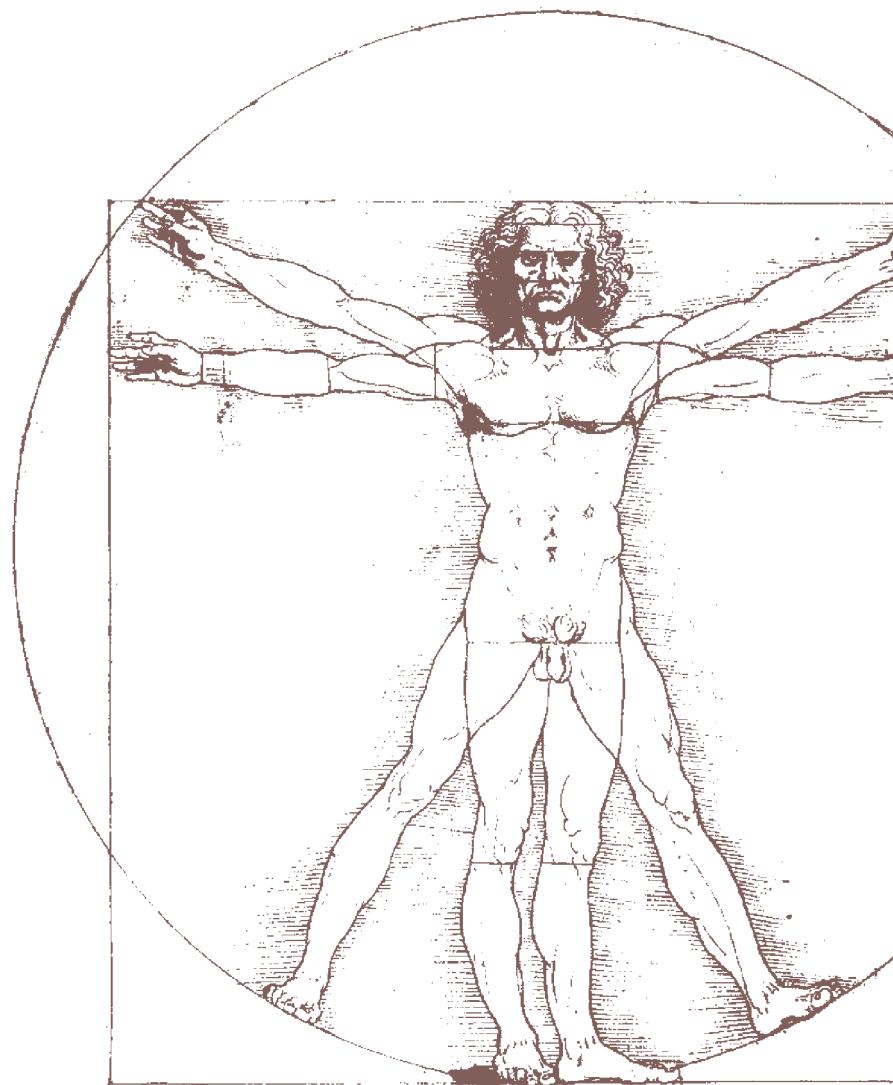
山内整形外科 院長

山内 健輔

口腔がんと咬合再建、
新たな治療法に挑む

富山大学学術研究部医学系
歯科口腔外科学講座 教授

山田 慎一

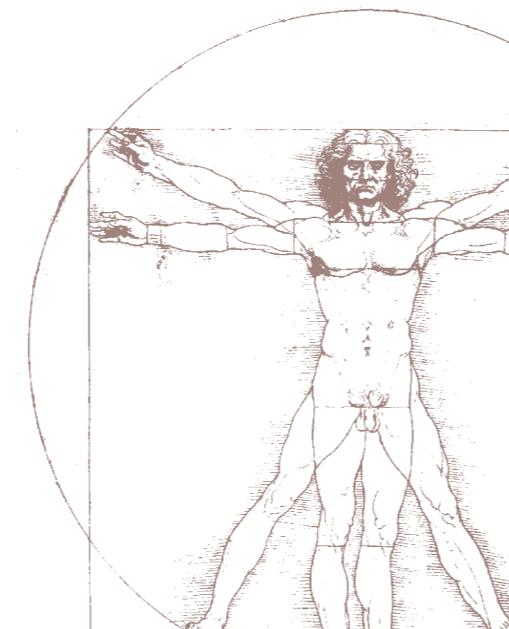




STAFF

Publisher 羽田和政
 Editor 坂口俊克
 Writer 上乗繁能／大廣涼
 Photographer 藤森祐治
 Designer 吉田真人／西村恭子

発行/NPO法人 学産プロジェクト
 〒920-0213
 石川県金沢市大河端町東55番3号
 TEL 076-203-6613
 e-mail:info@project-ishin.net



「建物の主治医としての自覚」

—これが、みづほのこだわりです。

山田耳鼻咽喉科医院 様



外観



受付・待合室



診察室

CONTENTS

- 04 最先端の白内障手術を
被災地や途上国へ

金沢医科大学眼科学講座 主任教授
佐々木 洋

- 12 ここで完結させ、
頼られる地域医療を担う

山内整形外科 院長
山内 健輔

- 20 口腔がんと咬合再建、
新たな治療法に挑む

富山大学学術研究部医学系 歯科口腔外科学講座 教授
山田 慎一

- 27 ISHIN column vol.3
奇跡的に生まれ変わった野村病院

医療法人社団恩誠会 理事長
野村病院グループ CEO
野村 祐介

- 29 ファイнесの
お聞かせください、ドクター!
DOCTOR'S VOICE

山田耳鼻咽喉科医院 院長
山田 健太郎

しまざき こどもクリニック 様（増築）



外観



受付・待合室



診察室

独立の夢、応援します。

培ってきた豊富な経験とノウハウを基に
医業経営コンサルタントによる開業支援

私たちみづほ工業は、医療建築分野での
提案営業スタイルを確立し、
病院や福祉施設の開業を支援しています。
これまで培った豊富なノウハウを基に診療圈調査、
土地探し、施設提案、事業運営までを
専門スタッフが丁寧にサポート（無償）いたします。
多くのドクターが抱かれている開業についての
不安や不明な点を和らげ自信を持って開業へと
進んでいただけるお手伝いができると想っております。

医院・歯科医院開業個別相談会

日時 ● 令和8年2月14日(土)・15日(日)
10:00～17:00

会場 ● みづほ工業(株)本社(八日市)

詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.mizuho-co.com/medical/>

申込QRコード



木造の新しい選択肢。

店舗・事務所・倉庫・医療福祉施設・保育園・アパートなど鉄骨造が一般的だった大規模建築を木造で。
 木造建築の新しい選択肢「テクノストラクチャー」。木造でありながら柱の少ない開放的な
 大空間を「木」と「鉄」のハイブリッド複合梁「テクノビーム」で3階建、延床面積3,000mまで
 対応可能です。みづほ工業は建築物の木造化を推進し、地球温暖化の防止や循環型社会の
 形成、そしてカーボンニュートラルの実現に貢献していきます。

MIZUHO みづほ工業株式会社
 本社／〒921-8064 金沢市八日市丁目562番地 TEL 076-240-7030(代) ホームページ <https://www.mizuho-co.com>

SUSTAINABLE GOALS




- 医療施設
- クリニック
- ドクター
- 薬剤師
- 看護師
- 栄養士
- 介護士
- ソーシャルワーカー
- ケアマネジャー
- 民生委員
- 地域の方々
- 在宅高齢者施設
- 民間支援相談室

地域包括ケアシステムをサポート

ICCの情報技術「患者情報共有ネットワーク」は
地域包括ケアシステムに関わるすべての方のニーズに応える
ソリューションとして、さまざまな医療の現場で生かされています。
私たちはITで万全のネットワークを築いていきます。



Link The Medical Information

ITによる医療情報ネットワーク

icc 株式会社
石川コンピュータ・センター

医療システム本部／〒924-0833 石川県白山市向島町1100番地
TEL(076)268-8315(代) FAX(076)268-7145
医療向けソリューション <https://www.icc.co.jp/medical/>

■本社／〒920-0398 金沢市無量寺町八番地1
TEL(076)268-8311(大代表)
<https://www.icc.co.jp/>

■支社／東京・名古屋
■支店／大阪
■営業所／富山・福井

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY

佐々木 洋

のつけから、自らが執刀する白内障手術についてそう打ち明ける。佐々木洋教授が手がける白内障の手術は、年間約3000件。日本では1年で約180万件以上の白内障手術が行われるそうだが、なかでも佐々木教授の手術件数は群を抜いて多い。そのスピードと安全かつ正確な手術の背景には白内障治療の進化がある。

白内障は、目の水晶体が白く濁る病気で、高齢になればなるほど有病率が上

白内障手術で40代の視力

手術室に入るとわかりますけど、私の手術はあつという間に終わります。顕微鏡を使った手術で、早ければ4分から5分。次の患者さんが後ろの部屋で待機していく、終わるとすぐに入れかわり手術室に入ります。大学病院は、入れ替えに時間がかかるのでそう多くはできませんが、外の病院なら1時間に8～10件ぐらいは普通です。長年、岩手県の釜石のぞみ病院にも通っていますが、そこでは午前中に40件ぐらい手術しています。



最先端の白内障手術を
被災地や途上国へ

DEPARTMENT OF OPHTHALMOLOGY

HIROSHI SASAKI

がつてきます。早ければ40代で約5%、80才以上ではほぼ100%の人になんらかの水晶体混濁が見られ、視界がぼやけたり、かすむようになります。カメラのレンズのような役割を果たしている水晶体が白く濁つてしまふと、「元に戻すことはできません。

最も有効な治療法は、濁つた水晶体を人工の眼内レンズに交換することです。この白内障手術が近年、大きく進化しており、いまや高齢の方で90歳～100歳を超えて手術するケースも珍しくありません。局所麻酔で体への負担が少なく、手術の安全性とレンズの性能が格段に向しているので、患者さんは安心して手術を受けられます。

最近は「見えるようにする」手術から「屈折矯正・視機能最適化」手術へと変わっていきます。従来までは、見えにくくなつた目を手術で治して、メガネを掛ければまた見えるようになる矯正視力を上げる手術でした。それがいまは、ただ見えるだけではなく、裸眼視力を良くする屈折矯正白内障手術と、老視矯正白内障手術が主流になつてきました。平たく言えば、白内障手術をすることで視力が回復し、老眼もなくなつてメガネをしなくても40歳ぐらいの目に戻れるわけです。

メガネなしで近くも遠くも見えるようになつて、体への負担や合併症も少ない。それが最近の白内障手術の特徴で、患者さんのQOL向上にも大いに役立つています。

見え方の「質」を判定

要因の一つは、眼内レンズの進化です。従来の矯正視力を上げる手術では、特定の距離にしかピントがあわない単焦点レンズが一般的でした。これは、遠くに焦点を合わせたレンズを選ぶと、近くで読書などをする時には老眼鏡を使う、逆に近くに焦点を合わせると、遠くを見るためのメガネが必要になります。

それが近年は、遠く・中間・近くの複数の距離にピントを合わせられる多焦点眼内レンズや、遠方から中間距離まで連続的に見える焦点深度拡張型（EDOF）レンズ、さらには乱視にも対応するトーリックレンズなどの普及により、患者さんの状態に合わせて最適な人工レンズが選べるようになっています。

ちなみに、単焦点レンズや単焦点ED

OFレンズによる手術は保険適用ですが、多焦点系のレンズはほとんどが選定



ビジョンシミュレーターを開発

眼内レンズの選択に際しては「ビジョンシミュレーター」を導入しています。眼内レンズの種類による見え方の違いや、多焦点レンズを使用した場合の光の具合などを大型モニターで再現し、手術前に確認するシステムです。

眼内レンズの選択には、患者さんの日常生活の視距離、とくに最も視る時間が長い最頻視距離を確認し、生活で何が大事かを把握する必要があります。たとえばパソコンや携帯の使用頻度はどうか、パソコンはデスクトップかノートパソコンか、近くまたは中間視が必要な趣味はあるかないかなど。それらに応じて、両眼での全距離視力をテストし、どの距離が見え、どの距離に不自由を感じているかなどを確認します。

ビジョンシミュレーターを使用するど、患者さんは術後に裸眼で中間距離や近距離がどのくらい見えるか、見えにくいか、十分理解しないまま手術を受けることはまずありません。患者さん自らが、副病型をしっかりと評価し、そのうえで手術適応の有無を判断します。

具体的には、視力やコントラストの低下、屈折変化、羞明（まぶしさ）、單眼複視などの症状を、水晶体混濁から説明できるかを確認します。診断は主病型と副病型をしっかりと評価し、そのうえで手術適応の有無を判断します。

水晶体混濁が見られ、視界がぼやけたり、かすむようになります。カメラのレンズのような役割を果たしている水晶体が白く濁つてしまふと、「元に戻すこと

年9月に私が理事長を務めるNPO法人で開発し、金沢医科大学病院が全国に先駆けて使用を開始しました。すでに全国で100を超える医療機関で採用されており、今後はアメリカの病院でも使用される予定で、2026年早々に上市される計画です。

もう一つ、当院では低眼圧で手術を行う低灌流圧白内障手術を行つており、その有用性に適した最新の手術機器「UNITY VCS（以下UNITY）」を導入しています。UNITYは、従来までの水平方向だけではなく、垂直、縦方向にも振動し、これまでの2倍以上の効率で水晶体の核を破碎、吸引できます。進行した核の硬い難症例であつても、低侵襲の手術が可能です。

低灌流圧手術は、術中の患者の疼痛が少ない、術後に早期の角膜浮腫が少ない、術後の炎症が少ないなどのメリットがあり、UNITYの採用と相まって良好な治療成績を上げています。

白内障の国内第一人者である佐々木eruleを摘出し、白内障手術をすることも可能です。今後この分野で国内No.1をめざしたいと思っています。

白内障を予防するのはなかなか難しいですが、私の研究室では老眼の硬くなつた水晶体を柔らかくする点眼治療薬の開発にも取り組んでいます。この研究を企業と共に開発できないかについても検討しています。

疫学調査については、新たに南米のペルーハを考へています。ペルーは、紫外線が強く暑いジャングルと、同程度に紫外線が強く涼しい高地の気候条件を備えていて、暑さと寒さという両極端の気候風土の中で暮らす人たちの、白内障との関連性などを是非、調査、研究したいと思っています。

アフリカや南米などの途上国では、医療が整つておらず、白内障など目の病気で失明している人がまだたくさんいます。疫学調査はもとより、白内障自動診断機器の開発、手術指導、眼科病院の設立など、いろんな支援の形を通じて貢献していきたいと思っています。

将来的には、ペルーで病院を設立し、白内障で苦しむ多くの人たちの「光り」になればと。私自身の夢であり、ライフレークとして取り組んでいきたいと思っています。

Profile

佐々木 洋 (ささき ひろし)

金沢医科大学眼科学講座 主任教授

1987年 金沢大学医学部卒
自治医科大学眼科学教室 入局
1991年 米オーランド大学眼科研究所 研究員
1993年 自治医科大学眼科学 助手
1996年 金沢医科大学眼科学 講師
2005年 金沢医科大学眼科学 主任教授
2018年 NPO法人紫外線から眼を守るEyes Arc 理事長
2023年 金沢医科大学病院 副院長



HIROSHI SASAKI
Kanazawa Medical University

ンド、シンガポール、中国、台湾、アフリカのタンザニアなどを対象に行つており、白内障をはじめとする眼障害と紫外線との関連性を裏付ける貴重なデータになつていて。一方、岩手県の釜石のぞみ病院はじめ、能登地区の穴水総合病院や宇出津総合病院などの被災地にも赴き、白内障治療を通して地域との医療連携や関係づくりにも力を注ぐ。

紫外線関連眼疾患の疫学調査

疫学調査を始めるきっかけは、私が自治医大から金沢医科大学に移籍した1996年ごろにさかのぼります。それ以前の1990年ごろから、紫外線被曝が白内障のリスクであることが疫学研究で報告されていました。金沢医大でも環境省関連の研究で、気象条件の異なる地域での紫外線と白内障に関する調査を開始し、私が担当することになったのです。

小児期の紫外線被曝についても、沖縄県西表島で、高校卒業まで沖縄に住んでいた人と、移住者とを比較調査した結果、前者の方が翼状片のリスクが約6倍、核白内障が約8倍高いことがわかり、小児期からの紫外線対策が極めて重要であることを示しています。

佐々木教授は、紫外線との因果関係だけにとどまらず、熱中症と白内障との関係調査をはじめ、2012年から東京電力福島第一原子力発電所の緊急作業に従事した作業員の放射線被曝による健康への影響についても、長期にわたって検証している。低線量放射線被曝と白内障発症との関連性などを追跡しており、日本

陽市、山西省の太原市、海南省の三亞市の農村部、台湾の台中市、アフリカのタンザニア、国内では門前の調査を継続しつつ、鹿児島県喜界島、沖縄県西表島などでも成人を対象とした調査を新たに行っています。小児における眼部紫外線被曝の影響についても調べており、石川県、沖縄県、台湾、タンザニアでそれぞれ実施しています。

途上国で病院を設立

これまで調査した症例は、2万人以上に及びます。特徴的なのは、高温地域で核白内障が非常に多く見られたことです。すなわち紫外線の強い地域、高温環境が白内障のリスク要因になることが、調査から明らかになつたのです。

小児期の紫外線被曝についても、沖縄県西表島で、高校卒業まで沖縄に住んでいた人と、移住者とを比較調査した結果、前者の方が翼状片のリスクが約6倍、核白内障が約8倍高いことがわかり、小児期からの紫外線対策が極めて重要であることを示しています。

ICL手術 (Implantable Contact Lens) も始めたいと思っています。角膜を傷つけずに、目に小さなコンタクトレンズを挿入して、近視・遠視・乱視を矯正する視力矯正手術です。度数が強い人でも完全に受けられ、白内障を発症したら、I

ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

- 経営理念、診療方針の作成
- 開業までのスケジュール作成
- 開業地の選定、診療圏分析
- 事業計画の策定
- 融資の打診及び交渉
- 設計、内装業者紹介及びアドバイス
- 医療機器選定
- 税理士、公認会計士の紹介
- 広告相談
- 従業員募集、採用、教育の補助
- 開設手続き
- 開業後の経営支援、拡大展開
- 継承支援



0120-911-545

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠点

- 関東エリア(本社) ● 東京都千代田区鍛冶町一丁目7番6号
ヒルトップ神田ビル
中部エリア ● 愛知県大府市横根町新江62番地の1
関西エリア ● 大阪府大阪市淀川区宮原一丁目2番4号
新大阪第5ドイビル13階
北陸・長野エリア ● 石川県金沢市藤江北4丁目280番地

DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。

<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



山内 健輔 (やまうち けんすけ)

山内整形外科 院長

[略歴]
1998年 金沢大学医学部医学科卒業
金沢大学医学部整形外科入局
金沢大学大学院医学研究科入学
厚生連高岡病院勤務2000年 公立松任石川中央病院勤務
2001年 横浜栄共済病院勤務2003年 カルフォルニア州立大学サンディエゴ校、
アンチキャンサー社に留学2006年 金沢大学医学部大学院博士課程修了
医学博士授与・金沢大学整形外科助教

2008年 福井県立病院整形外科医長

2010年 整形外科専門医取得

2011年 山内整形外科副院長就任

2014年 山内整形外科院長就任

心できます。そして初診の患者に対する対応は、できるだけその日のうちに診断をつけて、その日のうちに治療をスタートさせることを心がけています。大きな病院だとMRIが混んでいて、検査は1週間後となることもよくあります。局所で治療すという考え方から、たとえば五十肩の患者さんなど、エコーを用いた局所の注射などで治すこともあります。薬と湿布だけで様子を見るのではなく、できるだけ医療機関でしかできないことを行い、その日のうちに『楽になつた』を実感させてあげたいと思っています。また、たとえば腰痛で来院して、注射まではいいと言われたときは薬と湿布を出しますが、それだけではなく、『ちゃんと運動をしましよう』などの今後の生活における注意点などのお話をすることで、いわゆる『おみやげ』を持って帰つてもらいます。食事の管理ができないなければ、当院は管理栄養士がいるので、食事指導の話もできますし、仕事が忙しいから運動ができるいないと言う人には、隙間時間で持つてもらいます。

医療機関でしかできないことを行い、その日のうちに『楽になつた』を実感させてあげたいと思っています。また、たとえば腰痛で来院して、注射まではいいと言われたときは薬と湿布を出しますが、それだけではなく、『ちゃんと運動をしましよう』などの今後の生活における注意点などのお話をすることで、いわゆる『おみやげ』を持って帰つてもらいます。肥満であつたら痩せましよう、と話すこともあります。当院は管理栄養士がいるので、食事指導の話もできますし、仕事が忙しいから運動ができるいないと言う人には、隙間時間で持つてもらいます。

大きな病院はそれなりの技術やマンパワーがあるのでそれでいいのですが、開業医はプラスアルファで患者満足度を上げるような工夫をしないといけません。当院ではリハビリのスタッフが一所懸命作った運動のやり方を記したレジュメも用意してあり、必要に応じてお渡ししています。このように患者さん一人ひとりに手間暇をかけて、手厚くしているつもりです。だから外来は結構疲れますよ。1日200～300人は来ますので」



整形外科医の醍醐味は 短期間で結果が出ること

実は高校生の時は勉強が苦手で、とても医学部に行けるような成績ではなかつたという。ただ、数学だけは得意だった。そうだ。

それをどうにかしたいなと思っていたんです。そうすると看護師が本棚や観葉植物を買ってきて、きれいにしてくれました。気がつくとスタッフが何も言わなくともやつてくれる、自分たちで考えて行動できる体制がいいと思います。規模が小さな病院でも、これからはトップダウンでやつてきる時代ではないと私は思っています。それぞれのスタッフが、自分が何をすれば患者満足度を上げられるか、職場環境が良くなるか、もしエラーがあれば、それをどうしたらいいのか、そういうことを自分たちで突き詰めていくことが大事だと思っています」

普段やつている仕事をただこなすだけではなく、1日1つ、小さなことでもいいので、気づきがあつて、それを経験して積んでいくと欲しくと考え、QC活動にも取り組んでいる。

本にはおすすめポイントが書かれた看護師手書きのポップ（60～70冊分）はファイルに収められて、すべての病床の傍に置かれている。入院患者はそれを見て、読みたいと思った本があれば看護師に頼んで持つてもらいう、そんなシステムだ。『元々は年季の入った本棚だったのでも、

自分から動ける 層の厚いスタッフが集まる

院長の気持ちを受けて、実践するスタッフも大変だと思う。そのためには何か工夫をしていることはあるのだろうか。

「看護師は病棟と外来にいますが、持場を固定するようにしています。外来にいる人はずっと外来にいて対応の仕方を熟知していますから、『運動していますか？』『ちゃんと内服できていますか？』など、私が言おうとすることを先に聞いてカルテに記載してくれています。病棟の方も同様で、特別に指導しなくとも、患者の状況を把握して行動してくれます。私の方も同様で、特に指導しながらは、患者の状況を把握して行動していくことはほとんどありません」

病棟にはきれいにディスプレイされた本棚がある。毎年、「本屋大賞」にノミネートされた本が並べられ、それぞれの本にはおすすめポイントが書かれた看護師手書きのポップが添えられている。書き始めたポップ（60～70冊分）はファイ

ルに収められて、すべての病床の傍に置かれている。入院患者はそれを見て、読みたいと思った本があれば看護師に頼んで持つてもらいう、そんなシステムだ。『元々は年季の入った本棚だったのでも、

「数学の教師になりたいと言つたら両親に怒られて（笑）、一浪して金沢大学の医学部に合格しました」

新人医師の頃は、外来が忙しすぎてカーテンをほとんど書かずに会計に送つたが近くにおらず、父親にレントゲン写真を送つて相談に乗つてもらつたり、「いま思えば恥ずかしかつたり頑張つてたなと思う話はいっぱいありますよ」と笑う院長。整形外科医になつてよかつたなど思う瞬間に聞いてみた。

「基本的に自分で手術をして治つていいのがいいですね。短期間で結果が出るところが整形外科の医者になつてよかつたなと思うところです。他の病院で治らないと言われた神経痛を、エコーを用いたハイドロリリースで治せたときなど、思わずガッツボーズをしたくなつたことがあります」

多忙極まる院長だが、休日は山登りに出かけることが多いという。

「もともとはキャンプをしたいと思つて道具も揃えました。ところが、土曜の午後は手術なので、考えたら2日間休みになることがほとんどないことに、道具を揃えてから気がついて（笑）。その

代わりにいまは、近くの5時間くらいで行つて帰つて来られる山に登つています。お気に入りは下市山（標高260m）や赤兎山（標高1629m）です。山の

上で何を食べるかにこだわつて、小さい鉄板を持って行き焼肉をしたり、食

後は本格的にコーヒーを淹れたりします。ずっと病院に閉じこもつて仕事をしていると、開放的な山みたいなところに憧れるのかもしれませんね。あと最近はサウナにもよく行きます。夜にサツと行けるのがいいんですけど、でも整わな

いんです。仕事のこととかずっと考えてしまうので……。山登りも同じで、どう

してもモヤモヤしてしまうことがあるときは、急な上り坂が続く、負荷の大きな山に登ります。きつくて何か考えている

余裕なんてありませんから」

最近、リンパ浮腫治療の資格を取得した院長。それで資格試験の勉強をすることが面白くなり、勉強にも没頭している

と言う。いまは「心電図検定」の勉強していく、それが取れたら「スポーツ医学検定」の取得を目指すそうだ。

「その後は少し難しいですが、『心理学』の資格を取りたいと思っています。整形外科では精神的な不安が痛みに関係することがあります。以前、ある日突然



歩けなくなつてしまつた患者さんが来て、私のところでは原因がわからず、神経内科の先生に診てもらつたら精神疾患が原因だと指摘され、専門病院に入院して治療を受けたところ、普通に歩けるようになつた症例を経験しました。職場でのパワーハラが原因だったようです。これは最たる例ですが、整形外科的には原因が分からぬことに、実はメンタルが絡むことがあるということをしみじみ感じ、心理的なところを勉強したいと思うようになりました」

このようにオフも結局はオンにつながることが多く、日夜ひたむきに医療に向き合つてゐる。「じつとしていられない人」とよく奥様からも言われる人」のような院長の姿を見ているからスタッフも率先して動いてくれるのではなか、そのように感じる。

患者さんを思い、医療全体の精度アップを図る

今後は医療技術だけでなく、看護のケアや入院中の食事など、院内全体の精度をもつと上げていきたいと話す、「当院はスタッフの層が厚いので、突き詰めればさらになんでもできると思います」と

福井県医療情報誌「n e o」6号より
記事転用

「いまは理事長と2人でやっていますが、私ができないことをカバーしてくれれる先生と一緒に仕事ができたらさらに層も厚くなりますので、うれしいです」

福井県では有床で新たに開業することはできず、そうなるとできることは限られてしまつ。さらにここには自ら動けるスタッフがたくさんいる。「そんな環境が気に入つて一緒にやつてくれる医師が来てくれたら」と話す。

患者ファーストを謳い、院長やスタッフの挑戦はこれからも続くが、地域にとってさらに頼りになる有床診療所へと着実に進化をしていくに違いない。

健やかな未来のために。



真のソリューションを実現する
価値あるサポート。

丸文通商は、医用機器と科学機器の供給を通じて、人々の健康維持と新しい産業の創造に貢献しています。取り扱いメーカーとの緊密な連携により最新の製品情報をスピーディに提供するとともに、自社のカスタマー・エンジニアによるメンテナンス体制を構築。真のソリューションを実現する価値あるサポートを展開しています。



医用機器部門

各種医用機器・システムの提供はもちろん、マーケティングに基づくアドバイスを行うなど、メディカルコンサルタントとして病院経営全般をサポートしています。



科学機器・産業機器部門

絶えまなく技術革新を続ける科学機器の最新情報を幅広く収集しながら、ユーザーニーズに応じた、最適なマシン・システムをコーディネートしています。



技術・サービス部門

メンテナンスや修理などのアフターケアによって、ユーザーをサポートするとともに、オリジナル製品や各種システムの開発にも取り組んでいます。

医療を支える。
人と地域の未来のために。

私たちが幸せな人生を歩むために、医療は、必要不可欠です。

しかし、世の中の変化とともに、医療は今、多くの課題を抱えています。

医療人材の採用から育成、キャリア支援、仕組み作りまで

私たち MCS は、HR (ヒューマンリソース) の分野で、医療の課題解決に向き合います。

医療関係者、生活者、地域社会、その未来のために。



明日の健康と新産業創造のパートナー

丸文通商株式会社

<https://www.marubun-tsusyo.co.jp/>

金沢支店
〒920-0385 石川県金沢市松島一丁目40番地
TEL 076-269-1880 / FAX 076-269-2522

富山支店
〒939-8221 富山県富山市八日町247番地41
TEL 076-429-7190 / FAX 076-429-3277

福井支店
〒918-8236 福井県福井市和田中二丁目907番地
TEL 0776-23-8070 / FAX 0776-23-9500

「地域」と「医療」の架け橋として ヒューマンリソースの問題をトータルで支援する

スギ薬局グループ

 **mcs**
Medical Career Support



詳しくは WEB へ

口腔がんと咬合再建、新たな治療法に挑む

富山大学学術研究部医学系歯科口腔外科学講座 教授

山田 慎一

富山大学附属病院の歯科口腔外科は、口腔や顎顔面領域などに生じる難治性の高い疾患を数多く担当する。診断から治療、リハビリによる機能回復まで総合的な歯科医療を提供する専門診療科を取材した。

口腔と顎顔面の専門診療科

大学病院における歯科口腔外科は、一般的な歯科医院では対応が難しい高度で専門的な治療が求められる。主な対象は、口腔内や顎顔面領域に生じる疾患であり、腫瘍や顎変形症、顎関節疾患、外傷や炎症、先天異常、デンタルインプラントによる咬合再建など多岐にわたる。

富山大学附属病院の歯科口腔外科では、こうした疾患の診断や治療に加え、術後のリハビリによる機能回復など高度な医療を担う。小児から高齢者まで対象患者も幅広く、口唇口蓋裂や発育、発達に配慮した治療、リハビリにまで対応で

きる体制が整っている。単一の症状にとどまらず、診断から治療、機能回復まで総合的な治療を提供できるのが特徴だ。最近の傾向として、高齢の口腔がん患者さんを治療する機会が増えています。あとは顎変形症など噛み合わせが悪い患者さんにに対する顎矯正手術です。通常であれば、矯正歯科での歯列矯正のみで治療できますが、当院で行うのは顎の骨格から治療するケースで、骨を分割して噛み合わせを改善しています。また、腫瘍切除後などではデンタルインプラントによる咬合回復などで、術後のリハビリなどを含めて行っています。歯科的な知識および美意識の向上や、手術や機器

の進歩などもあってより安全に改善することも重視されています」

そう説明するのは、歯科口腔外科の山田慎一教授だ。なかでも重要視されるのが、全身疾患がある患者のリスク管理だ。心臓疾患や糖尿病、がん治療中の患者をはじめ、高齢者の中には認知機能や嚥下障害、誤嚥性肺炎などの不安要素を抱えた患者も少なくない。そうしたケースに備えて、院内の各診療科との連携は欠かせない。

「口唇口蓋裂であれば小児科や耳鼻咽喉科頭頸部外科との連携になりますし、口腔がんは放射線科や放射線治療科、腫瘍内科、形成外科、耳鼻咽喉科頭頸部外





科とも連携します。心臓疾患や糖尿病、がん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。何らかの疾患がある場合は、当院のように専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんのがん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。

「専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんのがん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。何らかの疾患がある場合は、当院のように専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんのがん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。」

がん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。何らかの疾患がある場合は、当院のように専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんのがん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。

「専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんのがん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。何らかの疾患がある場合は、当院のように専門診療科と常時連携できる環境が整っていることが強みであり、患者さんのがん治療中の患者さんは循環器内科や消化器内科など、関連する診療科と連携しながらの治療や管理が重要になります。」

肺炎や感染症リスクを抑制

いざれにしても「医科歯科」連携が重要で、山田教授は「特にがんの治療においては必須」と、その重要性を口にする。「医科の全身麻酔の手術で、治療中に免疫力が下がって急性転化して炎症が再燃したり、感染症がひどくなる場合があります。それによってがん治療が進まなくなってしまうことから、私たち歯科医がかかわり、たとえば歯周病など慢性的な感染巣を除去します。これは周術期口腔機能管理といって、2012年に保険

後性肺炎の抑制に口腔ケアが寄与する科学的根拠などについて研究してきた人である。そうした研究や実績をもとに、「全身疾患と歯科口腔との関連性を示す新たな知見や科学的根拠を見つけ出すとともに、大学病院の歯科口腔外科の役割の一つ」だと主張する。

北陸の歯科口腔外科で初の光免疫療法を実施

その一方で、先進的な治療にも力を入れている。なかでも注目されているのが、口腔がんに対する光免疫療法だ。歯科口腔外科で取り組んでいるのは、アキヤルックス（Aciylux）を用いた光免疫療法で、従来からあるがん細胞の上皮成長因子受容体に結合する薬剤（分子標的薬）に光感受性物質が付加された薬剤を点滴し、その後レーザー光をあててがん細胞を選択的に破壊する治療法だ。

この治療法は、切除不能で局所再発の頭頸部がんや口腔がんを対象とし、手術や化学療法、放射線治療など既存の標準治療で効果がなかつた場合に適用される。健康な細胞へのダメージが少なく、従来の治療より患者の負担が比較的軽いとされている。

「私の専門が口腔がんをはじめとする口腔腫瘍ということもあって、専門的な分野を発展させるには、最先端の治療が必要だと考えて、頭頸部がんで導入されている光免疫療法に取り組んでみたいと前々から思っていました。それで日本口腔腫瘍学会や、この治療法を日本に広めた楽天の三木谷会長と一緒に厚生労働省などにも強く働きかけていただき、2023年12月から歯科口腔外科でも使えるように保険収載された経緒があります」

山田教授は、日本口腔腫瘍学会のアキヤルックス治療運営委員会の中部地区を統括する委員を務めるなど、この治療法を牽引する立場でもあり、「対象となる症例が再発病変などで、切除不能かどうかを吟味し、見極める」役割も果たしている。

富山大学附属病院歯科口腔外科では、2025年4月、再発病変があつて切除不能な口腔がんの60代の患者に、北陸の歯科口腔外科では初めてとなる光免疫療法を実施した。同じく同年11月には、70代の患者に二例目の光免疫療法を行つている。

適用になつてから広く行われるようになります。口腔ケアや咬合、咀嚼の機能を維持して管理する行為で、口腔内をきれいにすることによって口腔内の細菌を減らし、感染症のリスクを抑える役割を果たしています」

「口腔機能管理することで、術後の肺炎リスクや抗菌薬の処方量が減少するなど医療費の削減にもつながっています。同じく「予後栄養指数の数値が術前術後も変わらないことから、術後早期に食事ができて栄養が落ちないなどの利点もある」と、山田教授は指摘する。術後の合併症を防ぐという観点からも、歯科や歯科口腔連携が、一定の効果をもたらしているのだ。

「私たち医学部の歯科口腔外科は、医学部の教育機関に所属するので、医学生や看護学生にも医科歯科連携の講義をして、口腔機能や口腔細菌と全身の関連性や重要性を早い段階から身につけてもらおうようにしています」

ちなみに山田教授は、感染症の分野では国内屈指の臨床、研究拠点といわれる長崎大学の出身で、その後、信州大学に移り、2022年に富山大学附属病院に赴任した。この間、がん治療における歯科連携が、一定の効果をもたらしているのだ。

石川県河北郡津幡町

山田耳鼻咽喉科医院

耳鼻咽喉科・アレルギー科



山田 健太郎 院長

【略歴】
 2011年 金沢医科大学医学部 卒業
 2013年 金沢医科大学耳鼻咽喉科 入局
 2014年 同 助教
 能登総合病院、穴水総合病院、羽咋病院、
 加賀市医療センターなどで勤務
 2022年 山田耳鼻咽喉科医院 院長
 2025年 山田耳鼻咽喉科医院 新築移転

地元に長く愛される
専門クリニックをめざす

「耳鼻咽喉科は聴覚や嗅覚など五感に深くかかわり、その人の生活の質に直結します。同じ疾患でもどういうふうに日常を過ごしたいか、それによって治療法は人によって違つてきます。まず患者さんの話をしっかりと聞くことが大事だと思っています」

2025年10月に新築開院したばかり。院長の山田健太郎先生は、診療にあたり患者との「最初の入口」を大切にする。

小さな子どもから80代、90代の高齢者まで患者層は幅広い。対象疾患も風邪からアレルギー性鼻炎、睡眠時無呼吸症候群、難聴まで様々だ。診療内容には、補聴器外来、アレルギー検査、舌下免疫療法、睡眠時無呼吸症候群と専門的な名称が並ぶ。

新築移転するまでは、現在地から

祖父、父、本人と3代続く耳鼻咽喉科医院。祖父や父の背中を見て育つたものの父や祖父から言われて耳鼻科医になつたわけではなく、「自然に」耳鼻咽喉科医の道を選んだそうだ。

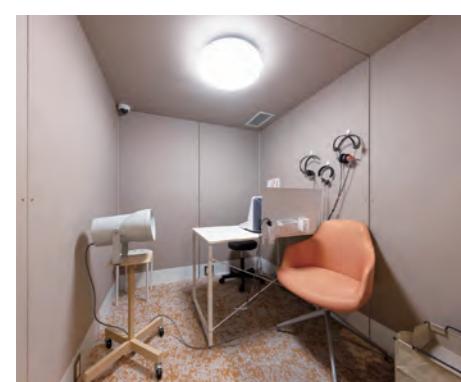
新築移転を決めました」

安心して通つていただける医療環境を整えたいという思いから、新築

800メートルほど離れた場所に、祖父が開業し、父が引き継いだ旧院があつた。2022年、耳鼻咽喉科医として父の跡を引き継いだ山田院長はそこで2年半ほど診療し、あることをきっかけに新築移転を決意する。

「2024年の能登半島地震をきっかけに、津幡町へ移り住まれた方が多くおられました。その中には、難聴でお困りの患者さんもいらっしゃり、当初は院外の補聴器会社をご紹介していました。ただ、補聴器は購入して終わりではなく、聴力検査や調整を繰り返しながら、長く付き合っていくものです。津幡から離れた補聴器店まで通つていたら、それならば、身近な地域に、きちんとした検査設備があり、補聴器の調整やその後のフォローまで行える耳鼻咽喉科があつた方が、患者さんにとってよいのではないか」と思つて、決して楽なことではあります。それならば、身近な地域に、きちんとした検査設備があり、補聴器の調整やその後のフォローまで行える耳鼻咽喉科があつた方が、患者さんにとってよいのではないか」と思つて、決して楽なことではありません。

「アレルギー性鼻炎も睡眠時無呼吸症候群も難聴も、長く付き合つて、決して楽なことではありません。それならば、身近な地域に、きちんとした検査設備があり、補聴器の調整やその後のフォローまで行える耳鼻咽喉科があつた方が、患者さんにとってよいのではないか」と思つて、決して楽なことではありません。



健やかな未来に、潤いを。

主なソリューション内容

- ・新規開業・開局支援
- ・医薬分業支援
- ・経営コンサルティング(事業承継、etc.)

- ・システム・医療機器コンサルティング
- ・各種研修会、医業経営情報配信サービス

総合窓口 本社 ソリューション部
 TEL:076-239-0625
 E-mail: solution@jp-finese.com



[本社／金沢支店] 〒920-0295 石川県金沢市大浦町ハ55番地 TEL 076(239)0032 FAX 076(239)0092
 [支店] 小松支店・七尾支店・富山支店・高岡支店・黒部支店・福井支店・敦賀支店・名古屋支店
 [営業所] 高山営業所・三重営業所・豊橋営業所

ファイネス × 医療

ALL IN for メディカルフェア

2026年3月8日(日)
10:00～15:30

会場 ファイネス 金沢本社
石川県金沢市大浦町ハ55番地



コンテンツ①

10:30～11:30
医療機関向け
経営支援セミナー

MICTコンサルティング株式会社 大西 大輔 氏
株式会社日本経営 河村 伸哉 氏

コンテンツ③

2024年稼働
ファイネス
物流センター見学

*GDP ISO9001対応 災害時対策

コンテンツ②

13:00～15:00
診療報酬改定セミナー

株式会社リンクアップラボ 代表取締役
講師 酒井 麻由美 先生

*当日はオンラインでのご登壇です

コンテンツ④

展示ブース

電子カルテ・自動受付・Web問診
予約システム・医療機器など展示予定

その他お楽しみ企画もあるかも…

医療をデザインする株式会社 医心

ISHIN

business description

各種印刷

WEB制作

デザイン

企画・編集

取材業務

撮影(写真・動画)、編集作業

出版(雑誌、記念誌など)

セミナー・イベント企画・運営

医療学会の企画・運営

テレビ番組企画・編集・制作

広報コンサルティング業務

医療ブランディング

クリニック開業支援

株式会社 医心

〒920-0213 金沢市大河端町東55番3号 tel: 076-203-6613

email: info@project-ishin.net

<https://project-ishin.net/>



詳細版をご希望の方は担当セールスまたは下記メールアドレス
までご連絡ください。

事務局 seminar@jp-finese.com

変わりゆく医療を あなたとともに。

取材にご協力していただきました医療者の方々、ご協賛していただきました企業様に心より感謝申し上げます。

また、医療情報誌「ISHIN」では私たちの活動にご賛同いただけるスポンサーを募っています。

Special Thanks

【広告掲載企業】

株式会社 スギ薬局
スギメディカル株式会社
株式会社 DCP ソリューション
株式会社 石川コンピュータ・センター
みづほ工業株式会社
株式会社 ファイネス
株式会社 アメニティ
丸文通商株式会社
株式会社浦建築研究所
株式会社 福光屋
増江会計
株式会社 家元

【協賛企業】

料亭 つば甚
株式会社 富士タクシー

株式会社 キヨー・エイ、株式会社 兼六、加賀種食品工業株式会社、室野硝子株式会社、株式会社 みづほ室内工業、株式会社 山崎、

有限会社 ソフト AZ、司法書士松永美里事務所、株式会社 岸グリーンサービス

ISHIN



DLT 木造仮設住宅（珠洲） 設計：坂茂建築設計 施工：株式会社 家元

北陸の暮らしに寄り添う家づくり 地域と共に歩む住宅会社です。

私たち株式会社家元は北陸を中心に、
地域の風土と家族の暮らしに根ざした住宅をつくり続けてきました。
令和6年能登半島地震では、被災された方々への仮設住宅提供、応急復旧支援、
物資の集積及び現地支援など多角的な復興活動を展開。
地域再建の力になるため、新たに輪島市堀町にも事務所を開設しました。
これからの暮らしを、地域の皆さんと共に築いてまいります。



GOOD DESIGN
AWARD 2025

グッドデザイン賞 2025「大賞」
内閣総理大臣賞受賞



美しい人になる
家元の家。

医療情報誌 医心「ISHIN」 協力病院一覧

石川県

金沢大学附属病院
金沢医科大学病院
石川県立中央病院
金沢市立病院
石川県立こころの病院
加賀市医療センター
公立河北中央病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
公立つるぎ病院
公立能登総合病院
公立羽咋病院
公立松任石川中央病院
国民健康保険 小松市民病院
市立輪島病院
珠洲市総合病院
町立富来病院
能美市立病院
石川県済生会金沢病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 金沢病院
金沢聖霊総合病院
金沢赤十字病院
独立行政法人国立病院機構 医王病院
独立行政法人国立病院機構 石川病院
独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター
独立行政法人国立病院機構 七尾病院
社会福祉法人松原愛育会 石川療育センター
医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川 金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川 心臓血管センター金沢循環器病院
医療法人社団浅ノ川 千木病院
医療法人社団光仁会 木島病院
医療法人社団慈豊会 久藤総合病院
医療法人社団 下崎整形外科医院
医療法人社団橘会 整形外科米澤病院

医療法人社団田谷会 田谷泌尿器科医院
医療法人社団博友会 金沢西病院
医療法人社団藤聖会 金沢メディカルステーション ヴィーク
国家公務員共済組合連合会 北陸病院
小松ソフィア病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院
社会医療法人財団董仙会 恵寿金沢病院
医療法人社団竜山会 金沢古府記念病院
医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院
特定医療法人扇翔会 南ヶ丘病院
特定医療法人社団勝木会 やわたメディカルセンター
公益社団法人 石川労働者医療協会 城北病院
医療法人社団博仁会 小池病院

富山県

富山大学附属病院
富山県立中央病院
富山市立富山市民病院
あさひ総合病院
射水市民病院
かみいち総合病院
黒部市民病院
公立南砺中央病院
富山県リハビリテーション病院・
こども支援センター
高岡市民病院
市立砺波総合病院
南砺市民病院
公立学校共済組合 北陸中央病院
独立行政法人国立病院機構 富山病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 高岡ふしき病院
独立行政法人労働者健康安全機構 富山ろうさい病院
富山県済生会高岡病院
富山県済生会富山病院
富山赤十字病院
医療法人財団恵仁会 藤木病院
医療法人社団秋桜 丸川病院
医療法人社団尽誠会 野村病院
医療法人社団藤聖会 富山西総合病院
医療法人財団五省会 西能病院
富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院
富山県厚生農業協同組合連合会 滑川病院

福井県

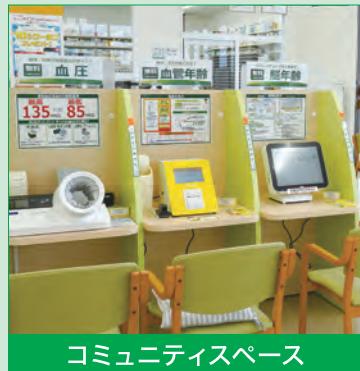
福井大学医学部附属病院
福井県立病院
市立敦賀病院
独立行政法人国立病院機構 あわら病院
独立行政法人国立病院機構 敦賀医療センター
福井県済生会病院
独立行政法人地域医療機能推進機構 福井勝山総合病院
福井赤十字病院
医療法人福井心臓血管センター
福井循環器病院
医療法人厚生会 福井厚生病院





私たちは地域の皆様に 寄り添い、頼られる 薬剤師になります。

超高齢社会の中で、ドラッグストアに求められる機能、地域社会において果たすべき役割が拡大しています。その中で当社は、地域の皆様の『健康の維持・予防・未病』から『治療・看護・介護・終末期』まで、生涯に渡ってトータルなヘルスケアサポートを行います。



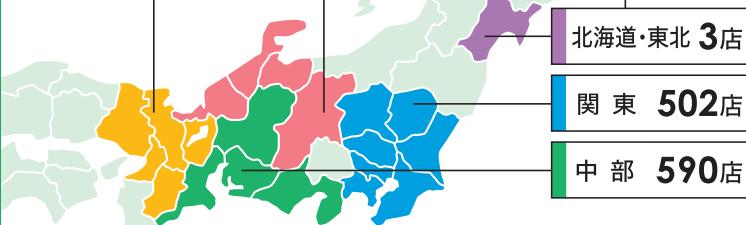
血管年齢、筋肉量・脂肪量等が
いつでも無料で測定可能。管理
栄養士がカウンセリングします

初めての介護の相談や介護用品
の販売・レンタルまで福祉用具
専門相談員が親切に対応します

中部・関西・関東・北陸・信州・
北海道・東北に出店エリア拡大中!

グループ合計
1,760 店舗
(2024年
6月末現在)

関 西 581店 北陸・信州 84店



■ 全社 売上高 **7,444.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 調剤 売上高 **1,587.8** 億円 前期比 +11.5%
(年間計)

■ 処方箋 枚数 **1,475.9** 万枚 前期比 +14.3%
(年間計)

■ 訪問調剤 対応店舗数 **601** 店舗 前期比 +6.4%
(年間計)

■ 訪問調剤 患者数 **189,109** 名 前期比 +7.4%
(年間計)

2023年度実績

詳しくはHPをご覧ください。 <https://www.drug-sugi.co.jp/>

スギ薬局

検索

〒474-0011 愛知県大府市横根町新江62番地の1 TEL 0562-45-2700